

ドイツ語指示詞 *derjenige* の統語論的・意味論的考察

吉田 光 演

1 序 論

ドイツ語指示詞 *derjenige*/*diejenige*/*dasjenige* (英語の *the one who, those who* に相当。以下 *derjenige* で代表) は性・数・格によって変化するが、この指示詞には次のような問題がある。

(i) *derjenige* は指示代名詞・付加語的指示詞に属す (Duden 2009: 288, Helbig/Buscha 2005: 229f.)。 *derjenige* は単独で代名詞として、また *derjenige Mann* のように限定詞として使える (ただし後続修飾句が必要)。指示 (demonstrative) という名は付くが、*derjenige* は *dieser* (=this) のように、発話場面に存在する対象を指す直示 (deixis) では使えない (“Füllen Sie dieses Formular bitte vollständig aus.”, Wortschatz Leipzig コーパス。この *dieses* は *dasjenige* で代理できない)。この性質は他の指示詞 *der, dieser, jener* とは異なる。「あれ」に類する遠距離指示詞 *jener* は、過去の回想など時間的距離を表す用法はあるが、発話場面の対象を指す直示で使われることは現代ドイツ語では稀である。その点で確かに *jener* と *derjenige* には類似性が推察される。実際、(1) のような眼前の発話場面での直示用法は *jener, derjenige* いずれも容認できない。一方、過去の時点を参照する (2) の用法では、発話の眼前状況は指せないが、*jener* は使える。しかし、この *jener* は、*derjenigen* では置き換えられない (Gunkel 2006: 90f., Gunkel 2007: 213-216)。

- (1) *Dér/Dieser/*Derjenige/??Jener Wagen ist toll.* (眼前の自動車を指して「この (あの) 車はすごい」。以下、強勢アクセントを持つ指示詞 *der* は *dér* の形で表示する。)
- (2) *Einmal den Kaiser sehen, ihn vielleicht gar treffen – das waren die Urlaubssehnsüchte jener Tage.* (Wortschatz Leipzig. 「いつか皇帝を見ること、できれば彼に会うこと、それがあの頃の休暇の憧れであった」、*derjenigen* *Tage* は容認不可能。)

jener を用いて遠距離対象を指示することは困難であり、(1) の場合、“*dér Wagen da/dort*” のような副詞 *da, dort* (そこ・向こう) が必要である。*derjenige* と *jener* の類似性は、*jen-* という形態素の同一性からも推測できるが、具体的にどのような共通点・相違があるのか両者を取り上げた先行研究は少ない (例外は Gunkel 2007, Blümel 2011など)。

(ii) *derjenige* が指示的である理由は、文脈照応的機能に基づく。しかもそれは、予め出現した名詞句表現を指す前方照応 (anaphor) ではなく、後ろに現れる句と照応する後方照応 (cataphor) の機能に限定される。例えば、*derjenige* に後続する関係文や、属格名詞句や、前置詞句等の修飾句が後方から *derjenige* を限定するような形式が必須となる¹⁾。

(3) Man kauft dasjenige Auto, das einem am besten gefällt! (「人は、自分が一番気に入った車を買うのだ」、Web)

(4) Dort liegt [ein schönes Auto], *Dasjenige_j kaufe ich. (j は同一指示を表す指標)
(「そこに素晴らしい車がある。それを買う」という前方照応機能はない。指示詞 *dás* なら可能)

(iii) *derjenige* の後方照応的用法は、*der*, *jener* でも代用できるが、*derjenige* の特徴は、後方照応的に機能する関係文の制限的解釈を明示する働きにある (*der*, *jener* は非制限解釈も許容する)。 *jener* との相違として、*jener* が特定の・制限的解釈のみを許すのに対して、*derjenige* は不特定解釈・総称的解釈も可能である点が挙げられる (Gunkel 2007: 223)。

以上の点によって、*derjenige* の特性は概ね把握できるが、他の指示詞との関係で不明瞭な点も多い。現代ドイツ語では *derjenige* は回りくどい (schwerfällig) 表現とされる (Duden 2009: 288f.)。しかし、*der*, *dieser*, *jener* の頻度と比べれば少ないものの、*derjenige* は無視してよいほど少なくない。Wortschatz Leipzig コーパスでは *dieser* が365,422例、*jener* は14,583例、*derjenige* は2,946例、*diejenigen* は11,347例である。近距離 *dieser* と比べれば少ないが、*jener* と *derjenige*, *diejenige(n)* の差は大きくない。Brandenburg 州新聞コーパス DWDS でも *derjenige* 類は、“Zeit” 紙で31,535件 (*jener* は145,682件)、“Berliner Zeitung” 紙で10,646件ヒットする (*jener* は42,478件)。新聞・雑誌、官庁用語、学術用語において *derjenige* が使用されることも多い。単純に google で *derjenige* を検索すると総数約 9,290,000 件ヒットする。これは用語の定義に現れる制限的關係節の多用とも関係する²⁾。また、*derjenige* が理論的観点からも興味深いのは、形態論的、統語論的、意味論的観点から、2つの点で *derjenige* に関して未解明の点を残しているからである。

Q1. *derjenige* の形態統語論。*derjenige* は定冠詞 *der*、形容詞的 *-jenige* から構成されている。

このような複合語的な形態的特質は上記の *derjenige* の性質とどのように関連するのか？

Q2. *derjenige* の照応表現としての後方照応的機能と、後続する関係文や付加語的修飾句のような照応先の表現との統語的・意味的な関係がいかなるものか？ *derjenige* が複合語的性質を

もつならば、どのような機能によって後方照応が可能となるのか？生成文法において議論されたように、関係節の統語的分析との関係で *derjenige*(NP)+ 関係節 (relative clause/Relativsatz) はどのように分析できるか？名詞句補部か、付加部か、あるいはその他の構造なのか。

本論はこの2つの問題について、Web 等の具体的データを参照しつつ分析する。本論は以下の構成である。2節では指示と直示の関係を検討し、*jener* との関係を考察する。3節では、関係節の分析を行い、4節では *derjenige* の形態論的分析を行い、5節で *derjenige* の統語論的・意味論的考察を行う。6節では結論と展望を述べる。

2 直示と指示、照応

直示 (deixis) はギリシア語 *δείξις*、指示 (demonstrative) はラテン語 *demonstrare* から由来し、いずれも外部世界の対象を「指し示す」という意味で概ね同義的である。名詞句表現には、言語外の世界の対象を指し示す指示 (reference) の働きがあるが、指示の仕方はさまざまである。例えば、人名 *Einstein* のような固有名詞は指示対象が明らかで、過去の時代の人物でも単独者として存在したことは自明だから一義的な指示を表す。他方、「私」「きみ」のような1・2人称代名詞は、話し手・聞き手を指示する可変表現であり、*this*, *dieser* のような指示代名詞は、話し手に近い領域にある対象を指示する。これらの代名詞の指示は発話状況に依存するが、現実の発話状況が定まれば指示対象も定まり、発話の「今・ここ・私」を原点として指示場が作られる。これを Bühler (1934: 38) に従って直示 (deixis) と呼ぶ。他方、3人称代名詞 *he*, *she*, *it* (*er*, *sie*, *es*) のように、テキストで前後に生じる他の言語表現と同一解釈を指し示すことによって文脈を通して間接的に指示対象との関係を確立する方法を照応 (anaphor) と呼ぶ。指示詞は、直示にも照応にも使用することができ、直示を「現場指示」、照応を「文脈指示」と呼ぶ場合もある (金水・田窪 1992: 123)。逆に、照応を中心に据え、直示を「外部照応」、後者を「内部照応」と呼ぶ立場もある (Diesel 1999)。本論では、直示と照応に区別するが、(2) のように、発話原点から遠距離にある見えない対象 (距離的にアクセスできない物、過去・回想時における対象) については、直示概念で分析することは難しいので、注意を要する (吉田 2013)。

これに関連して、英語・ドイツ語の直示指示詞を示す (吉田 2014)。

(5)	proximal (近)	distal (遠)
英語	<i>this</i>	<i>that</i>
ドイツ語	<i>dieser</i>	(<i>jener</i> - 発話場面)
	<i>der</i> (<i>das</i> , <i>die</i>) [-proximal,-distal(中立的)]	

英語では話し手の近くにある近距離の対象を this で指示し、ドイツ語では dieser で指示する。他方、話し手から遠い距離にある遠距離の対象を英語では that で指示するが、現代ドイツ語では、遠距離直示には jener は使用されない（古い文体では可能）。dér Wagen dort（あその車）のように、空間副詞 dort（遠距離）、da（中域距離）を名詞句に付加することによって、遠距離対象を指示することができるからである。また、指示代名詞としての強勢アクセントのある dér が空間距離と中立的に直示表現として使える。例えば近くの写真の人を指して“Wer ist dér?”（この人誰？）と聞くこともでき、遠くにいる誰かを指して“Wer ist dér dort?”（あれは誰？）と聞ける。その結果、遠距離直示の jener が不要になったと思われる。しかし、時間直示では、過去の時点を指す意味で jener は可能である（jene Tage「あの日々」）。あるいは、発話原点から「遠くにある」ことを認知的に推移させると、回想の意味で jener を使用できる。（6）の jener は、発話場面にない対象で、過去の状況の既知の対象を指す。また（7）のように、対比的に dieser/ jener を併用することによって、近距離・遠距離空間直示を表すことが可能である（Duden 2009: 286）。

- (6) Ich hoffe dass man sich noch lange an jene tapferen Leute erinnert.（「人々があの勇敢な人々をまだ覚えている…」）、Web、2001.911関連）
- (7) Diese irdische Welt - jene himmlische Welt.（Duden 2009、「この地上、あの天界」）

いずれにせよ、直示による指示の本質は、言語的な属性記述（確定記述 definite description と呼ばれる定名詞句による対象記述による指示）ではなく、発話状況の参照による話者原点との距離（近・遠）による個体の指示確立という点である。それは、指差しなどの身振りや指示棒を使えば、非言語的手段によっても可能である（Bühler 1934: 79f.）。

- (8) this, that, das（これ、それ、あれ）、dieser N(noun) → 個体（± 近距離）の指示

一方、照応関係では、前方照応（anaphor）と後方照応（cataphor）の2種が区別されるが、典型的には前方照応が多い。例えば、先行する文や同一文内で先行する句において、先行詞になる表現が出現し、その表現と同一のものを表すことによって同一指示関係が構築される。言い換えれば、それは先行詞に依存した意味解釈であり、対象への指示は間接的である。不定名詞句と定名詞句の前方照応（ein Buch → das Buch「ある本」→「その本」）や、不定名詞句と代名詞の前方照応（ein Student → er「ある学生」→「彼」）などのような関係である。

(9) [ein Buch] (ある本)... [das Buch] (その本) / es (それ) ...

↓外部世界↑ _____ | 前方照応 (先行詞表現との一致)

表現と対象との関係では、間接指示の関係となるが、照応の場合、指示対象が一義的でない場合もある。every のような量化表現が先行詞になる場合、指示対象は変動する。(10) で関係代名詞 *der* の先行詞が量化子 *jeder* (=every) によって、ロバをもつすべての農夫を変域とする形で量化され、代名詞 *ihn* の先行詞 *einen Esel* の対象も、各々の農夫のロバを変域として変動していく。

(10) [Jeder Bauer]_i, *der*_i [einen Esel]_j hat, schlägt *ihn*_j.

(一頭のロバ (Esel) をもつ農夫 (Bauer) はだれもが^s (*jeder*)、それを (*ihn*) たたく)

指示詞 *dieser/jener* (後者、前者) も照応関係を結べる。これらは直示を照応関係に転用したものであり、2つの対比的先行詞 A, B が先行文にある場合、*dieser* は後続する文から近い表現 B を指し (「後者」)、*jener* は遠い表現 A を指す (「前者」)。

(11) Sie wundern sich über die Veränderung meines Aufenthalts und beklagen sich über mein Stillschweigen. Der Grund von diesem liegt in jener, der Grund von jener aber in hundert kleinen Zufällen. (Goethe, Duden 2009. 後者 (diesem 「私の沈黙」) の理由は前者 (jener 「滞在の変更」) にあるが、前者 (jener 「滞在の変更」) は何百の小さな偶然による)

また、直示的に機能する指示代名詞 *der* が先行詞と照応関係をもつ照応解釈になる場合がある。

(12) のように、量化詞が代名詞を束縛する束縛代名詞である場合、代名詞 *er* は可能だが、指示代名詞 *der* は容認できない。他方 (13) のように、先行詞が従属節内部に埋め込まれるため代名詞が束縛されない場合、代名詞や指示代名詞でも照応解釈が成り立つ (Wiltschko 1998: 172)。

(12) [Jeder Mann]_i glaubt, dass [er_i /**der*_i] stark ist.

(「誰もが自分 (*er*) が強いと思っている」。指示詞 *der* では受けられない)

(13) [Wenn ein Bauer [einen Esel]_i hat], dann schlägt er [ihn_i /den_i].

(「農夫がロバをもっていれば、彼はそれを (*ihn/den*) たたく」) (Wiltschko 1998: 172)

(12, 13) が示しているのは、*dér* のような直示的指示代名詞は先行詞の束縛を受けることができないということである。束縛 (binding) とは、同一指示の解釈をもつ2つの名詞句の関係として、文構造の上位に先行詞 A があり、A が照応表現 B を c 統御 (c-command) することである。c 統御とは、先行詞 A を支配する枝分かれ節点が表現 B を支配することである (Chomsky 1981: 165ff)。言い換えれば、*dér* のような指示代名詞は言語文脈が強制するような束縛形式ではなく、話し手の認知的領域の内部で強く記憶に残るような外部世界の対象への指示関係により、その同一指示解釈が可能になる。(13) の場合、*einen Esel* (一頭のロバ) という名詞句が導入され、「農夫が所有するロバ」という概念的対象が喚起され、(Heim 1982の談話表示理論の意味で) 談話状況内に導入される。その談話状況内の対象に指示代名詞 *dén* がリンクする (D-linking)。このように考えると、指示代名詞は、先行詞への文脈的な前方照応関係ではなく、聞き手 (読者) が認知的な談話対象に直接的指示関係を結ぶことを可能にするものと考えられる。以上の議論から、名詞句指示は (外部対象の) 直示か照応かのいずれかであり、両方を同時に担うものではないことが導き出される。それはまた、指示表現が役割分担を担っていて、語彙的な冗長性を避けていることを示しているものである。

一方、直示系列から除外された *jener* は、束縛に関係しない後方照応的役割で使用できる。

(14)... eben jener Politiker, der gerade die anderen Regierungschefs der Euro-Zone um mehr als 80 Milliarden Euro anpumpt,... (“die Welt”, 「ユーロ圏の政権代表から8,000億ユーロ以上を強引に借りてくるあの政治家」)

(14) では *jener* Politiker (あの政治家) は、後続する関係節 (*der... anpumpt*) によって修飾され、関係節と後方照応関係にある。後方照応の場合、先行文脈に談話対象として浮かび上がらせる表現は存在しない。従って、典型的な言語表現に依存した照応とは言えず、上述した意味の冗長性がない。英語と同様にドイツ語の場合も、関係節は制限的用法と非制限的用法の2つがあり、先行詞となる *jener/der/derjenige* + 名詞は (15) のように、両方の用法で修飾される。一方、近距離直示の *dieser* は (16) のように非制限用法のみ可能であり、逆に *diejenige* は (17) のように、非制限用法の関係節を容認しない。

(15) Jene/Die/Diejenigen (Personen), die das Gesetz gebrochen haben, werden bestraft. (「法に違反した(あの)人々は罰せられる」。*jene, die* は制限用法も非制限用法も可能。しかし、*diejenigen* は制限用法のみ、Gunkel 2007: 213)

(16) *Dieser* (Läufer), der als erster durchs Ziel kommt, ist der Gewinner.

(「このランナーが、彼はトップとしてゴールを切ることになるが、勝者である」。Gunkel 2007)

(17) **Diejenige* (Athletin), die *übrigens* schon bei den letzten Wettkämpfen gewonnen hatte

(「あのアスリートたち、ところで彼らは前回の世界大会で既に勝っているが...」。非制限用法で *diejenige* は非文。Gunkel 2007)

これらの相違は直示の強さに比例する。直示志向の近距離 *dieser* は独立的で、制限的關係節と両立しない。しかし直示表現ではない *derjenige/diejenige* は制限的關係節とだけ共起し、非制限用法と両立しない。*jener* や *der* は中間的であり、どちらの解釈も基本的に可能である。

3 關係節の理論的分析

次に關係節の統語論を見る。Chomsky (1981, 1995) が提唱する生成文法では、關係節の構造がさまざまな形で提案されてきたが、本論では紙幅の制約のため、代表的分析の輪郭を描くだけに留める。句構造を再帰構造ととらえる生成文法から見れば、關係節は、關係代名詞と時制文 (TP: tense phrase) から成り立つ節 CP (Complementizer Phrase 「補文標識を主要部とする句」) として把握される。CP である關係節は、一定の方法で先行詞としての名詞句 (NP) と関連する (Abney 1987に従い、限定詞 D (determiner) を主要部とする限定詞句 DP と分析する)。

最初に、關係節 CP の構造を見る。語彙 X^0 を主要部とし、補部と併合 (merge) し、左の指定部を併合することで句を作る X バー構造では、關係節 CP の主要部は補文標識 C であり、C が補部として時制文 TP と併合して節ができる。先頭の關係代名詞は時制文 TP の中から CP 指定部に移動する。which, who, ドイツ語 *der, das, die* のような關係代名詞は、限定詞句 DP と等価である。また、*mit dem* (=with whom) のような前置詞随伴による前置詞句も移動する。従って、which, *der* のような關係代名詞は主要部位置ではなく、(18) のように CP 指定部に現れる。一方、英語の *that* で導かれる關係節では、*that* は語彙的主要部であり、主要部 C に来る ((19)、(20))。英語の場合、WH 關係代名詞か、または *that* が現れ、両方が共起することはない (目的語位置が空所の場合 *that* を省略することも可能)。標準ドイツ語の關係節では、*that* に相当する關係代名詞はないが、バイエルン方言では、(21) のように、關係代名詞 *de* (=der) と、*that* に相当する關係副詞 *wo, woa* (=where) が C 位置に同時に共起することができる (Bayer 1984: 25f.)。

(18) das Buch, das_i ich t_i gekauft habe. (私が買ったその本、t_i は空所・移動の痕跡)

the book which I bought have

(19) DP [_{CP} das_i [_C C⁰ (φ) [_{TP} ich t_i gekauft habe (T)]]] (CP 指定部への移動)

(20) 英語 DP [_{CP} WH-R_i [_C C⁰ (that_i) [_{TP} ... t_i T VP ...]]]

(21) dea Hund [_{CP} dea_i [_C⁰ wo] [_{TP} t_i gestern d’Katz bissn hot]]

the dog which that yesterday the cat bitten has

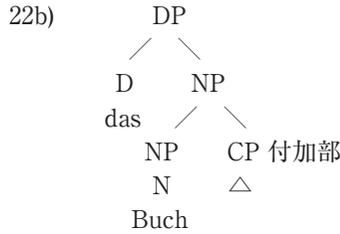
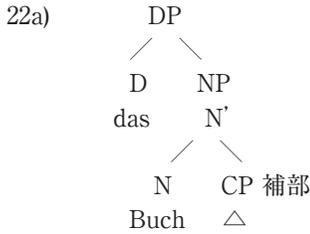
(「きのうその猫に噛み付いたその犬」、dea と wo が共起、Bayer 1984: 24)

関係代名詞 which, der, das, die は、文中の項（主語・目的語）位置からオペレータ位置としての CP 指定部に移動し、節主要部 C は空か（標準ドイツ語）、英語では that が挿入され、空のオペレータ OP が CP 指定部にあると仮定される。その際、関係代名詞は、先行詞である DP 句の性・数と一致し、格は文中の句の格を付与される。(18) では、das Buch の中性・単数、対格と一致するため das になる。このように、英語・ドイツ語の関係節は同じ構造をもつ。ちなみに日本語関係節では「私が買った本」のように、関係代名詞が存在しない。関係代名詞の移動は WH 疑問の疑問詞移動と同じ種類のオペレータ移動だが、関係節は独立した指示的意味をもたず、先行詞を修飾する属性を意味する（意味的には1項述語。(18) は λx [I bought x yesterday] と表せる。「私が昨日買った物の集合」)。指示詞 der は、意味的には個体を指示するタイプ (e: entity) であるが、関係節でのオペレータ移動によって1項述語形成の働きが付与されると考えられる（ラムダ演算子 λ の追加。Heim & Kratzer 1997)。

問題は、先行詞としての限定詞句 DP と関係節 CP の構造である。DP と関係節が結合関係にあることは、DP と関係節全体が話題化できることでも明らかである（“Das Buch, das ich gekauft habe, enthält den vollen Namen der Dame”, Web より。「私の買った本は、その婦人のフルネームを含んでいた」)。先行詞と関係節の関係にはさまざまな分析がある。大きく見ると、先行詞は関係節とは外在的関係にある外在型 (Chomsky 1977) と、先行詞が関係節内部から上昇によって移動したとする内在型に分かれる (Kayne 1994)。外在型では先行詞の名詞 N (または名詞句 NP) を主要部とする見方が一般的である (限定詞 D を主要部とする分析もある)。X バー構造では、先行詞と関係節の関係は、典型的には主要部—補部の関係か、主要部—付加部の関係である (関係節は先行詞の後に続くので、指定部の可能性は除外)。本論では指示詞 derjenige との関係で制限的用法の関係節を見るので、先行詞を個体と解釈する非制限用法は論じない。

(22) a. $[_{DP} \text{ 限定詞 D (das)} [_{NP} [_N \text{ Buch} [_{CP} \text{ das}_i [_{TP} \text{ 文 } t_i]]]]]]$

(22) b. $[_{DP} \text{ 限定詞 D (das)} [_{NP} [_{NP} \text{ Buch}] [_{CP} \text{ 関係代名詞 das}_i [_{TP} \text{ 文 } t_i]]]]$



主要部—補部関係は、“*das Buch kaufen*” (=buy the book)のごとく、他動詞が目的語を取るような選択関係である。しかし、関係節 CP は、名詞によって選択される性質をもたず、随意的な要素にすぎない (“*das Buch*” だけで自立的)。意味的にも、関係節は先行詞を修飾する属性表現を表す。この意味で、(22a) のような $[_{NP} N CP]$ の主要部・補部関係ではなく、(22b) のような付加部構造の方が適切である (Chomsky 1977)。ただし付加部の場合でも、さまざまな構造が考えられる。(22b) の変異として、関係節が中間投射 N' に付加される構造もありうる ($[_{DP} D \text{ das} [_{NP} [N' [N' \text{ Buch}]] CP]]]$)。しかしこれも、名詞に付加している点では同じである。

他方、関係節が空所 (gap) を持つ特性により、先行詞が関係節の内部から移動するという分析も可能である (「主要部内在型関係節」)。この時、*Buch* (=book) のような裸名詞 NP は項自体ではなく、限定詞 DP として機能するので、関係代名詞と名詞 NP を一つの単位と見ることができ。すると、(23) のような移動分析が可能である (Kayne 1994等)。

(23) a. $[_{DP} D \text{ das} [_{CP} [_{TP} \dots [_{DP} \text{ das}[_{NP} \text{ Buch}]]\dots]]]]$ (D が節 CP を補部に取り)

(23) b. $[_{DP} D \text{ das} [_{CP}[_{DP} \text{ das}[_{NP} \text{ Buch}]]_i [_{TP} \dots t_i \dots]]]]$ (CP 指定部に限定詞句 DP が移動)

(23) c. $[_{DP} D \text{ das} [_{NP} \text{ Buch}]_i [_{CP} [_{DP} \text{ das } t_j]_i [_{TP} \dots t_i \dots]]]]$ (NP が関係節内から移動)

(23) の移動による主要部内在型関係節の派生は複雑だが、“*make headway*” のようなイデオムに基づく関係節 (“*the headway that we made*”) を見れば、空所と先行詞 NP の密接な関係が説明でき、移動を左方移動(上昇)とする点で WH 移動と同列に分析することができる。また、限定詞 D が関係節 CP を補部として選択する構造となる。一見表層構造とは異なるが、*whatever* や *wer* (=who) による自由関係節のように先行詞のない関係節もあり、先行詞に名詞が含まれない場合もある。また、限定詞と関係節の密接な関係という点で、D-CP の関係は、2種類の移動を認めるかどうかは別として、*derjenige* の特徴を把握できるという長所がある。

- (24) Es wäre also genug Zeit gewesen für diejenigen, die damit nicht einverstanden sind, das klar und deutlich zu sagen. (Wortschatz Leipzig, 「そのことを明確に言う事に満足していない人々のみにとって十分な時間があつたらう」)

(24) で先行詞 diejenigen の後に関係節がなければ非文になる。diejenigen は限定詞 D を含む範疇であり、NP は含まないので、[D + CP] 構造を仮定する理由となる³⁾。しかしながら、(23) の主要部内在型分析では、移動前の基底構造と移動後の表層構造とで語形が変化する問題を説明できない。例えば、(25b) のような基底構造は設定できない。

- (25) a. Die Texte, [denen wir uns heute also widmen wollen, sind...] (Wortschatz Leipzig, 「我々が今日取り組もうとするテキストは ...」)

- (25) b. die ()_[CP] ()_[TP] wir uns heute also [*denen [Texte(n)]] widmen wollen]]
(denen (複数、与格) は関係代名詞として適切だが、定冠詞として不適、den なら適格。また、複数与格名詞として語尾 -en が必要だが、先行詞は主格であり、Texte と一致しない)

また、先行詞が2つある関係節も内在型移動では説明できない (Sternefeld 2006: 376ff.)。

- (26) [_{DP} [der Mann] und [die Frau]]_[CP] die_i einander t_i lieben]]
(「お互いに愛し合っている男と女」、基底で “die [Mann und Frau]” とすると、限定詞句 der (Mann) と他方の die (Frau) が派生できない (Sternefeld 2006: 377))。

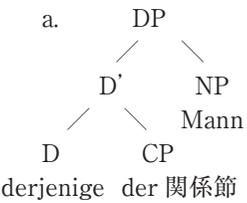
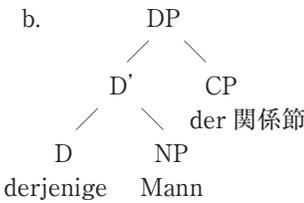
(26) のような複合的な句が先行詞になる場合を考えると、名詞句移動分析では説明できない。(26) の先行詞 “der Mann und die Frau” は単数の限定詞句の並列であるが、並列化し複数化すると関係代名詞は複数形 die になる。これを説明する案として、外在型と内在型の折衷的な照合分析 (matching) がある (Salzmann 2006 など)。例えば、(27) のように先行詞の限定詞・名詞は基底生成される。他方、定冠詞・名詞句が関係節内から節指定部に移動して、性・数の照合を外部と内部で行い、同一要素の削除によって関係節内の NP を削除する。機能的素性の照合であるので、表層形の音の相違があってもよい。

- (27) [_{DP}_D [d(er) Mann] und [d(ie) Frau]]_[CP] die_i (~~Mann und Frau~~)_i einander t_i lieben]]

照合分析は移動分析よりも表層形式が説明できる点で有利であるが、複雑な派生を仮定する必要性がある。一方、Sternefeld (2006: 379) は別の案として、限定詞 D を主要部とみなし、D が名詞句を第一補部に取り、関係節を右側の第2の補部とする構造を主張する。

- (28) a. [_{DP} [_D *derjenige*] [_{NP} *Mann*]], [_{CP} *der das Pulver erfand*]] (その散剤を発明した男)
 (28) b. [_{DP} [_D *derjenige*] [_{CP} *der das Pulver erfand*]] [_{NP} *Mann*]] (同上。名詞句が右)
 (28) c. [_{DP} [_D *derjenige*] [_{CP} *der das Pulver erfand*]]_] (その散剤を発明した者)

Sternefeld (2006: 379) によれば、(28a) の制限的關係節では限定詞 (*derjenige*) と関係節が必須であるが、(28c) のように名詞 (*Mann*) はなくてもよい (削除分析を取らなくても良い)。この場合、(28b) のように限定詞 D と節 CP とが結びついて名詞句 NP が右側に来るという分析も可能である (NP は省略可能)。表層で関係節が右に移動すれば (28b) から (28a) が派生できる。

- (29) a.  b. 

(29a) (29b) は右側分岐構造という点で一般的ではない。意味論的には名詞句 (*Mann*) の集合と関係節の集合 (どちらも1項述語) の交わりとして修飾関係をとらえ、限定詞が交差集合を量化すると分析でき、従って (29a) (29b) は一般量化詞句対応と理解できる (限定詞 *derjenige* が2つの項である名詞句と関係節を項とする。ix[NP(x) & CP(x)], i= 定性演算子)。2つの集合の交差という意味で、関係節よりも名詞句 NP を優先しなければならない理由はない。実際、*jeder*, *keiner* のような量化詞が限定詞となる場合、(30) のように、名詞句が不在でも問題はない。また、その場合、文法性 (*jeder* は男性主格) が意味的な自然性よりも優先される。

- (30) Jeder, der sich Selbst und Andere leiten möchte, benötigt ein gesundes Verständnis von sich Selbst und seinen Mitmenschen. (Web, 「自分自身と他者を指揮したい者は自分とその仲間についての良き理解をもつ必要がある」、文法性は男性だが、女性でも解釈可能)

Sternefeld の分析は記述的には優れている。限定詞（定冠詞や量化詞、derjenige）がまず関係節と結合する分析は、関係代名詞が歴史的には指示詞 der から発達したという経緯から見れば不自然であるが、形容詞句と同様に、付加語的修飾句が限定詞と名詞の間に付加される可能性から見れば不思議というわけではない。

(31) [_{DP} der [_{AP} sich selbst optimierende] [_{NF} Mann]]

(morgenpost.de, 「自分自身を最適化する男」、現在分詞句)

(32) der Mann, [_{CP} der sich selbst optimiert] (関係節化した場合、右に移動)

(33) [自分自身を最適化する] その男 / その [自分自身を最適化する] 男

optimieren-d-e のように現在分詞接辞 -d を付加し、接辞 e を付加した形容詞句は名詞句の前の位置で修飾するが、時制をもつ関係節は左から名詞句を修飾できない。従って (32) のように、関係節は右側に外置される。他方、完全な主要部右端タイプの日本語の場合、(33) のように、関係節に対応する連体修飾句は名詞の左に現れる。ドイツ語の関係節の基底構造を D-CP-NP と分析すれば、基底ではドイツ語も日本語も似た関係ということになる。

本節では、関係節の統語構造を概観した。分析には諸説あり、どれが決定的か結論は出ないが、限定詞と関係節が密接な関連にあることは確かである（5節でこの問題を検討する）。

4 derjenige の形態統語論

次に、指示詞 derjenige の形態的構造を見る。derjenige は定冠詞 der と jenige に区別され、指示詞 jener と共通の形態素 jen- と、形容詞派生接辞 -ig・屈折接辞 -e に区別される（jen- は beyond に含まれる古英語 yond- と共通する形態（向こう）と見られる。Blümel 2011: 25）。

(34) d-er + jen- ig + e

定冠詞-屈折 jen- 形容詞接辞 形容詞語尾（弱変化）

(35)	男性	女性	中性	複数
主格	derjenige	diejenige	dasjenige	diejenigen
対格	denjenigen	diejenige	dasjenige	diejenigen
与格	demjenigen	derjenigen	demjenigen	denjenigen
属格	desjenigen	derjenigen	desjenigen	derjenigen

der- 部分は定冠詞と同じ変化であり、形容詞 *jenige* は弱変化で、両者が一語に融合する。*des-* vs. *dessen*, *der* vs. *deren* のように、指示詞 *der* は接尾辞が長いので、*der-* は関係代名詞（指示詞）とは変化が異なる。しかし定冠詞 *der* にはアクセントがないが、*derjenige* のアクセントは *dér-* に置かれ、この点で指示詞 *dér* と似ている。定冠詞は名詞に付いて定の解釈となるが、アクセントを置くと指示詞に変わり、直示的に個体を指すか、対比的意味を表す。*Erde*（地球）、*Mond*（月）など、世界知識で特定可能な唯一名詞には定冠詞が付く（*die Erde*, *der Mond*）。しかし、唯一名詞にはアクセント付き指示詞は付かない（??*die Sonne* 「その太陽」、??*dér Mond* 「その月」）。唯一名詞は対象が一つで指示関係が自明だから強調する必要がない。他方、定冠詞の定性は、名詞句の指示対象が一義的に定まるという関係性が重要であり（Löbner 1985: 292ff.）、唯一名詞や総称用法（*Die Katze ist schlau.* 「猫は賢い」）、*die Hauptstadt von X* のような関係名詞（国 X の首都）のように、指示対象が実際に特定される必要はない。一方、*derjenige* の指示性は、名詞が付くかどうかで変化する。名詞表現の意味に関して、その外延が当てはまる集合から特定の個体を取り出す限定作用が重要である。従って関係節の限定作用が必要になる（*dérjenige Mann*, *der...* 「…する特定の男性（そうでない男性を除外）」）。名詞が現れない指示代名詞の場合、複数の集合間での対比的意味は薄まるが、関係節による限定作用は強まる（*derjenige*, *der...* 「…するもの」）。この場合、特定の指示対象から一般化されて総称解釈が出る場合があるが、それは定冠詞 *der* の定性効果や一義的關係性の効果に似ている（Simonenko 2015: 194ff.）。

このように、*derjenige* には指示詞 *dér* と定冠詞の *der* の2つの機能がある。一般的な文法解説では、*derjenige* は指示詞 *dér* と同じで、指示詞 *dér* の書き言葉の変異と説明される（Duden 2009, *Deutsche Wörterbuch und Grammatik*, www.canoo.net など）。しかしそれでは、(36) (37) のように、*dér* が直示用法をもち、*dérjenige* には直示用法がないことが説明できない。

- (36) a. *dér Mann*（指示詞「あの男」） b. **dérjenige Mann*（指示詞機能なし）
- (37) a. *Wo ist dér?* b. **Wo ist dérjenige?*（「やつはどこだ？」）
- (38) *derjenige/dér*, *der* in das Haus eintritt.（Web、「家に入ってきた者」、*derjenige*, *dér* 両方可）
- (39) Er gilt als *derjenige Mann*, *der* den FC Bayern zu einem Weltklub machte.（Web、「彼こそは FC Bayern を世界的チームに仕立てあげた男だ」制限用法）
- (40) ... sagte *der Mann*, *der übrigen*s elegant gekleidet war...（「その男は言った、彼はついでながら服装がエレガントで ...」、Kafka, “*der Prozeß*”、非制限用法、*derjenige* は不可）

確かに *dér, der...* のような同形語反復は文体的に回避されるべきで、そのため *der* ではなく、*derjenige, der...* が使われる傾向があり、その点で (38) のように、*derjenige* は *dér* の代用である場合がある。しかし、本論では以下のように、*-jenige* には特別な機能があると主張する。

jenige- 部分は、*hiersig-* (「この」、*hie(r) + (s)ig*) と同様の形容詞派生だが、単独では語にならず、*der* の屈折支配の下で弱変化する。従って、単数・主格、女性・中性対格だけが *jenige* となり、それ以外は *-en* 語尾で *jenigen* となる。つまり *derjenige* は、限定詞 D と形容詞 A の派生語 D+A であり、複合限定詞である。Blümel 2011: 24f. は、 $[_{NP} DP [_N AP]]$ の句レベルの NP 投射であると分析するが、本論では限定詞句として分析し、語彙レベルか句レベルだと考える。つまり、冠詞 *der* と同様に NP を取る限定詞 D か、または独立した限定詞句 DP の2通りの構造がある。

(41) a. $[DP [D \textit{der} [A \textit{jenige}]] (NP CP)]$ b. $[DP [[DP \textit{derjenige}] (CP)]]$

derjenige の *der* は、指示詞機能をもつが、形容詞 *jenige* を伴い複合語となるので、指示詞 *dér* と形態的に区別される。指示代名詞 *dér* は、属格 (*dessen, derer*) では直後に名詞が生じるが (*dessen Kind* 「その人の子」)、それ以外では単独で代名詞機能を担い、形容詞とは結合しない (**dessenjenigen, *denenjenigen* は不可。同様に *den großen* は良いが、**denen großen* は不可)。また、*derjenige* の *-jenige* は、*jener* (あれ) と共通する形態素 *jen-* を含み、意味的に、[遠距離] [非直示] の素性は共通する。しかし、*jener* 自体は指示詞であり、指示詞 *dieser* と並行的で、個体が指示できる (“*Sie sind wie ein Spiegel, in dem sich jenes Genie widerspiegelt.*”, Web, 「それらはあの天才が反映する鏡のようだ」、*dasjenige* は不可)。*-jenige* は (「ここにはない向こうのもの」の集合を指す形容詞であり、個体を特定できない (*der-* は定性の標識を示す)。つまり、「ここにはないような (*-jenige*)」集合を「(次の) 修飾句で限定する (*der-*)」限定詞である。指示詞 *dér* と形容詞 *jenige* の性質を合成すると、*jenige* の非直示の性質を受け継ぎつつ、特定の個体を出力するような限定詞的な機能が導かれる。

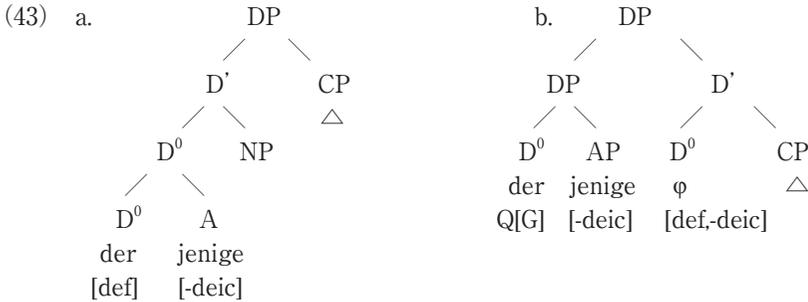
(42) *dér* [D: +definite, +deictic] + *jenige* [A: -deictic, +distal]

→ *derjenige*: [D: +definite, -deictic (+distal)] (定性をもつが、非直示的)

(42) により、*derjenige* は直示機能をもたない。遠距離の性質は照応に適用し、前方照応を避ける特徴と結びつくと考えられる (直示でなく、照応では前方照応を避ける定性を示す限定)。ではどのように定性をもつかが問題になるが、関係節がそこに関与してくる。

5 *derjenige* と制限的關係節

以上から、*derjenige* と関係節の構造・意味を考察する。*derjenige* は、D+A からなる複合限定詞 D で、名詞句 NP を取るか、または NP を不要とする限定詞句 DP である。いずれの場合も修飾句としての関係節 CP が必要である。Sternefeld (2006) の関係節分析や、関係節照合 (matching) 分析を基礎にして、さらにそれらを修正して、以下の2つの構造を提案する。



いずれも全体は限定詞句 DP であるが、(43a) は限定詞 *der* と形容詞 *jenige* が複合限定詞となり、名詞句と関係節の2つの補部を取る分析である。Sternefeld 2006の分析と似ているが、定性と非直示の D の性質によって、制限的關係節による NP の限定が導かれる。関係節がないと定性が保証されないからである。*derjenige Mann* (のような男) だけでは、*Mann* の外延が複数あるので個体を特定できない。この意味で *derjenige* の NP 項には反唯一性 (anti-uniqueness) が要求される (Simonenko 2015: 196f.)。複数の対象が列挙され、それが関係節で限定され、定冠詞 *der* で唯一物として同定される。従って関係節は名詞句外延を限定する制限用法でなくてはならない。**derjenige Gewinner* (その勝者) のように、D と NP だけで一つの指示対象が決定されてしまうと、関係節は限定効果を失い、補部としての機能を発揮できず、非制限的解釈に変わる。

(43b) は、NP を取らずに関係節だけを取る構造である。全体が DP である点は (43a) と同じだが、その指定部に限定詞句 *derjenige* が位置し、音のない主要部 D⁰の素性とマッチする。この D⁰が関係節を補部にとることによって個体が限定され、「…するもの」として特定される (D の性と数によって男性・女性・中性・複数の制限が起きる)。この場合、der *Präsident von X* といった関係名詞における定冠詞の限定解釈と同じ効果が生じる (“*Ich bin derjenige, der betrügt.*”, Web, 「私が、騙しているその当の男だ」)。また (44) のように、*derjenige* によって総称表現「…する人々」という一般化・総称化が表現できる。これは特定解釈ではなく、定冠詞 *der* 部分は量化 (総称 G: generic) の演算子として働く (For most *x* : *x* is such that *x*... 「ほとんどの *x* は…だ」)。すなわちこの用法は、定冠詞 *der* の総称表現と同様の働きである。

(44) Intelligent ist derjenige, der mit sich und der Umwelt in Harmonie lebt. (Web、「知的な人は自身と環境に対して調和ある生活をする人だ」、制限的關係節。総称的)

上記の構造から、反唯一的な集合の限定(特定)・量化の意味が導かれるが、さらに前方照応に一見似ている談話文脈上の対象の一部への言及という働きがある。次の derjenige は、前置詞句による修飾の例であるが、前文の beide Ehepartner (2人の配偶者) の一方を指す。

(45) Bei diesem gerichtlichen Verfahren können beide Ehepartner mit steigern. Derjenige [mit dem höchsten Angebot] ersteigert die Immobilie und wird Alleineigentümer. (Web、「この法的手続きでは2人の配偶者がせりをするすることができる。一番高い値をつけたの方が不動産の値を上げ、独占的所有者になる」、derjenige は beide (2人) の中のどちらか一方)

(45) のような例は、先行詞と照応の言語的な関係ではなく、談話文脈における認知的な対象物への指示詞的なリンクであり、上位集合の下位部分の制限という意味で理解できる。dieserjener 関係で、「後者・前者」の対になる句への指示が可能であるように、特定の領域の対象が前提されて、その中の一部に言及する仕方であり ({A, B, C...} から A を取り出す)、先に見た反唯一性条件と基本的には同様である(先行文脈で特定領域が喚起される点で異なる)。

以上、derjenige+NP+ 關係節について見てきたが、その形式意味論的な定式化については本論の枠組みを超えるため、今後の研究課題としたい。

6 まとめと課題

derjenige は複合限定詞であり、指示詞 der の文体的変異として捉えられることもあるが、制限的關係節、または属格等の修飾句を必要とする点で独自の機能をもつ (der は非制限用法も許容)。derjenige は、jener と共通する遠距離意味によって、「非直示」の特徴をもち、それゆえに独立用法がない (dieser, jener, dér は独立した代名詞として機能)。また、名詞には反唯一性の性質が課され、それゆえに制限的關係節による限定が要求される。これとの関連で、談話文脈で喚起された複数の対象の中での限定機能を果たす場合もあり、さらに、量化詞による変項解釈に似た総称的用法もある。このように、derjenige + 關係節は他の指示詞に見られない独自の機能を担っており、今後の課題としてさらに精緻な構造的・意味論的な分析が必要である。

注

- 1) 次の Web 検索例のように、属格名詞句や前置詞句による後方からの限定の例も見られるが、本論では主に関係節を見る。“Der Bezugsrahmen ist dabei nicht zwangsläufig derjenige des Staatsgebiets des betreffenden Mitgliedstaats.” (属格) “Wenn sich derjenige mit der weißen Mütze bei mir meldet, sollt ihr leben.” (前置詞句)
- 2) ドイツ語書き言葉では、関係節は常にコンマ(,) で区切られ、一見して制限・非制限用法の区別がつきにくい。学術用語、専門用語で *derjenige* + 関係節が多用され、特に複数 *diejenigen* の形式で定義文において使用される。“Bürgerinnen und Bürger sind diejenigen, die zu den Kommunalwahlen wahlberechtigt sind.” (Web、「市民とは、地方選挙権を持つ者である」)。“Mit ‘Kindern auf der Straße’ sind diejenigen gemeint, die sich tagsüber auf der Straße aufhalten und arbeiten” (Web、「路上の子供」とは、一日中路上にいて働いている者のことである」)。
- 3) Heidolph et al. (1984: 673f.) のように、*derjenige* (NP) の NP 部分を省略・削除して *derjenige* + 関係節を分析する場合もあるが、一般化・総称表現の *derjenige* (*diejenigen*) など、省略される名詞句が何であるのか、復元するのが困難なことも多い (単なる「人」のような解釈)。

参考文献

- Abney, S. (1987): *The English noun phrase in its sentential aspect*. PhD-dissertation, MIT.
- Bayer, J. (1984): COMP in Bavarian Syntax. *Linguistic Review* 3, 209-274.
- Blümel, A. (2011): *Derjenige*. Determiner that Wants a Relative Clause, *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 17/1. (On line journal)
- Bühler, K. (1934): *Sprachtheorie*. Jena: Gustav Fischer. Nachdruck 1982, Stuttgart: Gustav Fischer.
- Chomsky, N. (1977). On Wh-Movement. P. W. Culicover, P., Wasow, T. and. Akmajian, A. (eds.) *Formal Syntax*. 71-132. New York: Academic Press.
- Chomsky, N. (1981) *Lectures on Government and Binding*. Foris: Dordrecht.
- Chomsky, N. (1995): *Minimalist Program*. Cambridge, Mass.: MIT.
- Diessel, H. 1999. *Demonstratives: Form, Function and Grammaticalization*. Amsterdam: John Benjamins.
- Duden (2009) (Eisenberg, P. et al.): *Duden. die Grammatik*. (Duden Bd. 4) Mannheim: Dudenverlag.
- Gunkel, L. (2006): Betontes *der*. In: Breindl, Eva, Lutz Gunkel/ Bruno Strecker (Hgg.). *Grammatische Untersuchungen. Analysen und Reflexionen. Gisela Zifonun zum 60. Geburtstag*. Tübingen: Narr, 79-96.
- Gunkel, L. (2007): Nominalphrasen des Typs *derjenige* (N) +Relativsatz in den europäischen Sprachen. Fries, N./Fries, Ch. (eds.): *Deutsche Grammatik im europäischen Dialog. Beiträge zum Kongress Krakau 2006*, 213-238. (www2.rz.hu-berlin.de/linguistik/institut/syntax/krakau2006/beitraege/gunkel.pdf)
- Heidolph, K. et al. (1984): *Grundzüge einer deutschen Grammatik*. Berlin: Akademie.

吉田光演

- Heim, I. (1982): *The Semantics of Definites and Indefinite Noun Phrases*. PhD-dissertation, University of Massachusetts.
- Heim, I. & Kratzer, A. (1997): *Semantics in Generative Grammar*. Mass.: Blackwell.
- Helbig, G./ Buscha, J. (2005): *Deutsche Grammatik*. Berlin: Langenscheidt.
- Kayne, R. (1994): *The Antisymmetry of Syntax*. Cambridge, Mass.: MIT.
- Löbner, S. (1985): Definites. *Journal of Semantics* 4, 279-326.
- Salzmann, M. (2006): *Resumptive Prolepsis. A Study in indirect A-dependencies*. Ph. D. thesis, Utrecht: LOT.
- Simonenko, A. (2015): Structural Triggers of the Loss of Scopelessness. Steindl et al. (eds.) *Proceedings of the 32nd West Coast Conference on Formal Linguistics*, 191-200. Somerville, MA.
- Sternefeld, W. (2006): *Syntax, Eine morphologisch motivierte generative Beschreibung des Deutschen*. Tübingen: Stauffenburg.
- Wiltschko, M. (1998). On the Syntax and Semantics of (Relative) Pronouns and Determiners. *Journal of Comparative Germanic Linguistics* 2, 143-181.
- Zifonun, G./Hoffmann, L./Strecker, B. et al. (1997): *Grammatik der deutschen Sprache*. Berlin/New York: de Gruyter.
- 金水敏・田窪行則（編）（1992）：『指示詞』、ひつじ書房。
- 吉田光演（2013）：現代ドイツ語における指示代名詞 der/das/die の特徴について、『ドイツ文学論集』46号、67-81。
- 吉田光演（2014）：日本語・ドイツ語・英語の指示詞の比較に関する一考察、『欧米文化研究』21号、31-46。

Zur Syntax und Semantik des Demonstrativpronomens *derjenige*

YOSHIDA Mitsunobu

Dieser Aufsatz untersucht syntaktische und semantische Eigenschaften des deutschen Demonstrativums *derjenige*. Obwohl das Wort *derjenige* (*dasjenige/diejenige(n)*) als “etwas schwerfällig” charakterisiert wird (Duden 2009), kommt es sehr häufig vor, besonders in Zeitungen, Zeitschriften und Fachtexten, in denen definitorische Formulierungen mit Relativsatz verwendet werden (“Mit X sind *diejenigen* gemeint, die ...”). Trotzdem wird *derjenige* oft nur als schriftliche Variante des Demonstrativums *der* bezeichnet und hat daher in der Forschung keine besondere Aufmerksamkeit gefunden (wenige Ausnahmen: Gunkel 2007, Blümel 2011). In Wirklichkeit verhält sich *derjenige* jedoch anders als andere Demonstrativa wie z.B. *der*, *jener* oder *dieser*, die deiktisch auf ein Diskursobjekt referieren und anaphorisch auf ein Antezedens Bezug nehmen, während *derjenige* nur kataphorisch verwendbar ist und einen nachfolgenden Relativsatz (oder eine Genitiv-NP) verlangt. In diesem Aufsatz sollen zwei Fragen erörtert werden: (1) In welcher Weise lassen sich Syntax und Semantik des komplexen Wortes *derjenige*, das aus *der* und *-jenige* (<*jen*+ *-ig(e)*) besteht, von seinen morphosyntaktischen Eigenschaften herleiten? (2) Wie lässt sich der Zusammenhang zwischen *derjenige*, dem Bezugsnomen und dem Relativsatz im Rahmen der Generativen Grammatik beschreiben? (cf. Chomsky 1977, Kayne 1994, Sternefeld 2006)

Derjenige gehört kategorial zu einem Determinator D, der sich aus dem Demonstrativum *der* (Merkmal: [+definite][+deictic]) und dem Adjektiv *-jenig(e)* ([-deictic], [+distal]) zusammensetzt, was dessen kataphorische Verwendung erklärt, denn das Merkmal [+distal] schließt eine vorangehende Anapher aus. *Derjenige* hat entweder eine NP mit CP (Relativsatz) oder nur eine CP als Komplement und projiziert eine DP (Determinatorphrase) wie “[_{DP} [_{D'} dasjenige [_{NP} Auto]] [_{CP} das einem am besten gefällt]]” oder “[_{DP} diejenigen [_{D'} D [_{CP} die das Gesetz gebrochen haben]]]”. Dabei stehen die Denotate der NP, deren Menge durch einen restriktiven Relativsatz auf ein Objekt beschränkt wird, unter der Bedingung der Nicht-Einzigartigkeit (*anti-uniqueness*), so dass eine definite Referenz zustande kommt. Außerdem kann der Wortteil *der* als generischer Quantor wirken, so dass eine allgemeine Aussage mit variierender Referenz möglich wird (“Intelligent ist derjenige, der mit sich und der Umwelt in Harmonie lebt.”, Web).